

Realist with compound eyes
Atsushi SUWA
Solo painting exhibition



Photo : Kawamoto Seiya

Stereotype Japanese 02 194.0×97.0cm Oil on Canvas

諏訪敦 絵画作品展 複眼リアリスト

平成20年1月17日(木)～2月24日(日)

※2月5日(火)～一部展示替を致します

※2月11日(月・祝)は開館 翌2月12日(火)は休館

佐藤美術館

入場料 一般 500円 学生 300円

開館時間 午前10時～午後5時 金曜～午後7時(休館日 月曜日)

主催 財団法人佐藤国際文化教育財団・佐藤美術館

後援 東北芸術工科大学

協力 株式会社ナカジマアート 株式会社便利堂

小松音響研究所 彩鳳堂画廊 春風洞画廊

佐藤美術館
The Sato Museum of Art

諏訪敦は、北海道に生まれ、1992年武蔵野美術大学院修了、1994年より文化庁派遣芸術家在外研修員として2年間スペイン マドリッドに在住、彼の地で参加した国際絵画コンペで大賞を受賞し画家としてのキャリアをスタートさせました。

帰国後は絵画の原点回帰としての意味で写実表現の追求を続けましたが、2000年に開催された個展で、前衛舞踏の先駆者大野一雄、慶人両氏の協力を得て一年間取材し描き下ろしたシリーズ作品を発表しました。この制作体験は諏訪に大きな示唆を与え、これを契機として取材対象の選択を重視しつつ背後にある個人的歴史や思考など多岐の情報を取り込み、対象とのコミュニケーションのプロセスまでも素材とする制作スタイルへと転換させてゆきます。

その後は個展での活動が中心になり、日本在住の多様な来歴を持つ女性たちを題材にし、標本的絵画とインタビューを併記したシリーズ「JAPANESE BEAUTY」(2003年)や、一般より募ったモデル協力者の生活空間を切り取り、本来秘匿されるべき寝姿を描写したシリーズ「SLEEPERS」(2006年)などに結実しています。

現在我が国では、ジャンルを問わず描写系絵画の台頭が顕著にみられますが、そのきっかけを作ったのが諏訪敦であると思うのです。しかし、その超絶的描写能力と同時に表現のエッセンスは、対象への問いかけとコミュニケーションにより支えられ、そのため作品の多くが人物画に占められているのです。

「よそよそしい私は、絵画を通して初めて他者と確かな関係を築いていると実感できる」と本人が語るように、デッサンを基本とした視覚情報の確認のみならず、取材対象との対話、各種機材による記録、生活空間の共有など、単に再現的意味においてのみ完璧な絵画を求めるとしては過剰で執拗とも思える、複眼的な情報の取り込みに裏付けられている事、描写という最も非効率的な手作業を経て物事を丁寧に追体験し、対象の美的側面以外の多面性を読み取ろうとする意思がこの画家の本質なのです。そしてこのことがまさに、既存のフォトリアリズムや鑑賞絵画的写実画家などと、諏訪の絵画を分つ部分であると言えるのです。

本展は、この新世代の作家諏訪敦の最新作を含む全貌を、佐藤美術館に展示網羅することで現代絵画の行方を考察しようとするものです。



大野一雄の幻視
1999年・2000年 145.5×223.7cm
油彩・鉛筆・テンペラ/綿布・パネル

諏訪敦 絵画作品集展

複眼リアリスト

平成20年1月17日(土)～2月24日(日) ※2月5日(火)～一部展示替を致します

佐藤美術館

<出品概要> 初期作品(～94年)
大野一雄・慶人シリーズ(00～07年)
SLEEPERS(96～07年)
Stereotype(新シリーズ・新作) 他約50点

諏訪敦 公式サイト: <http://members.jcom.home.ne.jp/atsushisuwa/>

- 1967年 北海道に生まれる
1992年 武蔵野美術大学大学院修士課程修了
1994年 文化庁芸術家派遣在外研修員(2年派遣)に推薦 在SPAIN
- 主な個展**
1994年 「レスポワール選抜企画展」(銀座スガ台画廊)
2000年 「大野一雄・慶人」(日本橋三越本店)
2003年 「JAPANESE BEAUTY」(ナカジマアート)
2006年 「SLEEPERS」(ナカジマアート)
2007年 「ふたたびあいまみえ 舞踏家・大野一雄」(Gallery Milieu)
「SLEEPERS 3.0」(第17回 東美特別展・東京美術倶楽部/彩鳳堂画廊)
- グループ展など**
1995年 第5回パルセロ財団主催 国際絵画コンクールにて大賞受賞(スペイン)
1998年 日本現代作家作品展(中国・上海美術館)
2001年 両洋の眼展(以降毎年)
2002年 東日本の美 山展(東京ステーションギャラリー)
写実へリアリズム絵画の現在展(奈良県立美術館)
Christmas in Peace 平和へのメッセージ展(佐藤美術館)
2003年 第1回 アートフェア東京(東京国際フォーラム/彩鳳堂画廊)
2005年 DOMANI・明日展 文化庁主催在外研修の成果(損保ジャパン東郷青児美術館)
2007年 開館30周年記念企画 大地に実る、人とアート(北海道立近代美術館)
東京コンテンポラリーアートフェア 2007(東京美術倶楽部)
- その他**
2001年 NHK『土曜美の朝 存在の尊さを見つめて一画家諏訪敦』に出演
2005年 初の絵画作品集を求龍堂より刊行(ISBN 4-7630-0518-9 C0071)

イベント1
アーティストトーク 諏訪敦・mamoru(サウンドアーティスト)
日時:平成20年1月20日(日曜日)午後2時～3時 入場無料 先着順100名

4階展示室は諏訪敦の作品とサウンド(サウンドアーティスト mamoru)によるコラボレーション会場となっています。
<mamoruプロフィール>
本名、奥野 翼(まもる) 幼少より教会音楽に触れる。ニューヨーク市立大学にて音楽を学ぶ。民族音楽、現代音楽に触れ、音そのもの、響きといった要素を強く意識する。同大を卒業前後、「響き」の即興パフォーマンス、サウンドインスタレーション作品をギャラリー、美術館、その他の場所で発表。大阪を拠点に、東京、アメリカ、ヨーロッパでのパフォーマンスツアーや展示、他の美術家(マコトジミラ、宮島達男など)とのコラボレーションなど活動は多岐に渡る。 ■mamoru HP: <http://www.afewnotes.com>

イベント2
超絶描写VS便利堂コロタイプ
日時:平成20年1月26日(土曜日)午後2時～5時 入場無料 先着順80名

主催:財団法人佐藤国際文化育英財団
コロタイプ技術の保存と印刷文化を考える会
協賛:株式会社便利堂

本企画は、超絶的描写作品で知られる諏訪敦と、文化財の極めて精密なレプリカ製作で知られる便利堂コロタイプスタジオとのコラボレーションを実現しようとするものです。便利堂のコロタイプは、全国の美術館・博物館に納められておりその技術は世界的にも高い評価を得ています。しかし本企画は、ただ単に超絶描写にコロタイプがどこまで迫れるかという一方的なベクトルで考えているわけではありません。双方の対話のなかで、コロタイプの特性を最大限に生かしながらなお且つ画家の描写表現を損なわない、言わば「表現の可能性の模索による新たな作品の創出」が目的です。便利堂の一世紀以上の長きにわたって培われた技術と諏訪敦の共同制作によって生み出された作品はきっと同時代のアーティストに多くの可能性を提示することと思います。
※イベントの参加には展示会の入場料が必要です。

<お問い合わせ>

財団法人佐藤国際文化育英財団
佐藤美術館

東京都新宿区大京町31-10
TEL.03-3358-6021 FAX.03-3358-6023
E-mail: sato-museum@nifty.com
HP: <http://homepage3.nifty.com/sato-museum/>

交通:

JR総武線千駄ヶ谷駅より徒歩5分
JR総武線信濃町駅より徒歩6分
都営大江戸線国立競技場A3出口より徒歩4分
■駐車場はございません。

～信濃町駅がおすすめです～

信濃町駅正面に慶応病院があります。
駅を背にして慶応病院の左手の道(JR線路沿い)を直進。
下り坂を下りきった辺り四谷第六小学校向いです。

